

令和7年度 山梨県立山梨高等学校定時制評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	校訓「至誠無息」をあらゆる生活の中での心得として、常に目標や理想を高く掲げ、真摯に生きる生徒の育成
-----------	---

山梨県立山梨高等学校校長 藤巻 理恵

本年度の重点目標	1 基礎的・基本的学力の定着を図り、自ら学ぶ意欲を持つ生徒の育成
	2 自他を敬愛する豊かな心と、協働して物事に対応できる社会性を持つ生徒の育成
	3 学業と仕事を両立させることのできる、心身ともにたくましい生徒の育成
	4 地域や勤務先、保護者に信頼される学校づくり

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価				年度末評価(1月30日現在)		
本年度の重点目標				自己評価結果		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	達成度	成果と次年度への課題・改善策	
1	学習意欲を高め、学習習慣の確立につながる授業改善の推進	①ICTの利活用をとおして、予習・復習を習慣化し理解を促す授業の展開 ②授業改善につなげるための教員の研修機会の充実と学習評価の実践 ③国語・数学・英語で実施している少人数授業やチームティーチングの成果の検証	生徒の学習課題提出状況 生徒アンケート 授業アンケート 定期試験・教員研修 授業アンケート 生徒アンケート	B	生徒が積極的に授業に参加できるよう、スモールステップでの達成感を実感させたり、ICT活用によりわかりやすい授業展開を実施した。生徒は、学び直しを含めた学習をとおしてクラスの仲間と学ぶ楽しさを実感している。その感覚を生かして、生徒の学力向上の実感につなげられるとよい。 チームティーチングやパート分け授業は、生徒一人一人に目の行き届く学習環境である。生徒が、主体的に学習できる場面では、見守る姿勢を取りながら学習活動が活発になるよう指導していきたい。	
2	自他を敬愛する豊かな心を育む多様な体験活動の推進	①コミュニケーション力や自己肯定感を育むための生徒会行事等の企画運営 ②いじめアンケートの定期的な実施と、日ごろからの細やかな観察と指導によるいじめ根絶への対応 ③教員の働き方改革につながる、地域連携と外部人材の積極的な活用	生徒アンケート 教員アンケート いじめアンケート 教員アンケート 外部人材活用実績	A	全校で行う学校行事や体験授業をとおして、人間関係の広がる場面を作っている。外部講師の定時制課程への理解もあり、継続して体験活動を実施できている。入学後の人間関係の構築には、人間関係づくりが丁寧に進むよう、時間をかけて支援している。 県・市の各課と継続して外部講師依頼を行うことで、こちらの要望を生かした講師や講演内容で実施している。地域連携等、全校で参加できる機会を増やせるか検討する。いじめ根絶への対応には高い評価をいただいた。引き続き、生徒の様子を注意して対応していく。	
3	基本的生活習慣の確立と、自己の在り方生き方を追究したキャリア観の育成	①学業と仕事の両立に向けた就業把握と、遅刻・欠席等への積極的な指導 ②進路実現に向けた進路講話や個人面談、各種説明会など進路希望に沿った柔軟な情報提供 ③卒業時を見越した、進学・就職希望者に対する作文・面接指導の実施	三者懇談 生徒アンケート 保護者アンケート 進路情報の提供 作文・面接指導の実績 生徒・保護者アンケート	A	高校入学前に不登校傾向の生徒も多く、学校が心理的安全性の高い場所となるよう取り組んだ。特に非常勤養護講師の存在は生徒にとっても頼りになる存在である。職員は保護者との連絡を丁寧に行い、家庭に寄り添った指導を継続している。進路指導では生徒の進路決定まで、個に対応した指導を心掛けた。 アルバイトに挑戦しようという生徒が長期継続ができるよう、コミュニケーション力や課題解決能力の育成を重点的に実施したい。卒業時の進路を見据えた就職・進学試験へむけて、3年卒業対応、免許等取得の準備についても保護者と連携し、早めの対応を行う。	
4	ホームページや学校通信等による積極的な情報提供	①HPやBLENDを活用した学校通信、保健だよりの発信と生徒参加の機会を設けた情報発信 ②保護者の来校機会を増やすための公開授業や公開行事等の実施	生徒・保護者アンケート 保護者アンケート	B	ホームページでは即時、定時制通信と保健だよりは定期的に発行し、それぞれの媒体の持ち味を生かしている。端末を持っていない保護者には紙媒体で配付し、情報が行き届くよう配慮している。 情報発信の手段が様々ある中で、効果的な発信の仕方を考えることも必要かと思われる。	

学校関係者評価	
実施日 (令和8年2月17日)	
評価	意見・要望等
3	・学力格差にの大きい生徒にチームティーチングやパート分け授業で対応しきめ細かな学習指導がされている。意欲的に学びに取り組める環境づくりの工夫を期待しています。 ・学習しようという気持ちにさせてあげる。 ・大目標も大切だが、小目標の達成体験の積み重ねによる授業の進め方はよいと思いました。 ・理解度を高めるため、生徒との対話や話しやすい環境づくりにさらに力を入れてもらえればと感じた。
4	・授業以外の活動を通じて、コミュニケーションの向上などが図られていることがうかがえた。 ・行事や体験を通して人間関係の構築を図っている。 ・SNSによる情報が多く、とかく対人関係に苦手意識を持つ人が多いのではないかとと思うので、広くいろいろな仕事の方や違った考え方の人と会い、話すことはよいことだと思う。 ・様々な取り組みで成果が出ていると思います。今後、更なる発展を期待しています。
4	・先生方が一丸となって生徒や保護者に寄り添っている様子がうかがえる。 ・様々な特性を抱える生徒に対し、特性を乗り越え前向きに社会で活躍できる力をつけてほしいと思います。 ・働きながら学ぶことは素晴らしい。長く続けてほしい。 ・コミュニケーション力の強化が求められる。進路については、本人の「気になる」「好き」など目標を持ち挑戦してほしいものです。
3	・学校にいけない中学生に「こんな学びの場もあるよ」という情報を積極的に発信してほしいです。 ・発信方法が多様化への対応は大変だと思います。 ・ホームページも常に新しく更新され充実している。 ・生徒保護者からの評価はおおむね良好なので、引き続きタイムリーな情報発信をしていただければと思う。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。